

一関地域教育振興運動推進協議会 実践区（滝沢小学校PTA）

- 「テーマ」
- 震災を超えて・新たな教育課題への取組
組織の見直し・地域コミュニティ再生の取組
 - PDCAサイクルによる推進の取組
年間を通じた全県共通課題・モデルプログラムの取組
 - 地域ぐるみによる「いわての復興教育」の取組
防災教育・被災地支援交流・地域を担う人材育成の取組

活動の様子



『地域で学ぼう身近な自然災害 飛び出せ磐井川探検隊！』

～一関の自然災害の歴史を学び、防災の知識・意識を高める～

1 地域の教育課題

3. 11. あの大震災から1年半が経過した。沿岸地域に比べれば、一関の被害はわずかとも言えるかも知れない。そして、あの恐怖や混乱の記憶も薄らいできているように思われる。

しかし、私たちの住む一関は水害の常襲地帯。災害は他人事ではない。その歴史と防災への取組を学び子どもたちの生きる力を育みたい。

<課題の裏付けデータ>

- ・水害常襲地帯：よく知っている→5年生13%
- ・H20 内陸地震：よく知っている→5年生25%

2 役割分担と年間の計画

○課題解決のためのそれぞれの役割

<子ども>

地域の自然災害の歴史や防災の取組を学び、自他の命を守るためにできることを考える。

<保護者>

我が家の防災マニュアルを策定し、災害時の対応を家族で確認する。

<学校>

いわての復興教育の趣旨に基づき、教育活動を見直し指導の改善に努める。

<地域>

区長や民生児童委員、防犯協会など、関係機関が連携し児童の安全が確保できる体制を整える。

<行政>

教育振興運動の周知や啓発、関係機関への働きかけ、学習活動への支援を行う。

○課題解決のための年間の取組

- ・危機管理マニュアルの共有と我が家の防災マニュアルの働きかけ（PTA総会）
- ・区長、民生児童委員も参加しての地区懇談会
- ・消防屯所のシャッターペイント応募参加
- ・岩手宮城内陸地震遺構の見学や災害の歴史、治水事業などの学習（磐井川探検隊参加：5年生）
- ・総合避難訓練の実施（児童）や救急救命講習会の開催（PTA）等

3 取組の様子

<磐井川探検隊>

国土交通省岩手河川国道事務所の土砂災害防止活動の一環として行われた「磐井川探検隊」に平成22年から参加している。震災後の昨年度からは、防災教育、地域防災学習の機会として位置づけ取組んでいる。

岩手・宮城内陸地震の被災現場を整備した「災害遺構」や一関防災センター「あいぼーと」を見学し、自然災害の実際と防災の重要性を学ぶことができています。震災遺構は、地滑りによる7mの高低差がついた旧国道、深さ約30mの亀裂、落下した旧祭時大橋を見学通路から直接見ることができるといえない教材である。

さらに、水害の常襲地帯であるという地域の歴史や特徴、防災、減災のための施設や取組、それらに従事する人々の思い等を体験的に学べることはとても有効である。

<我が家の防災マニュアル>

災害時の避難場所や避難方法、連絡のとり方などを家族で取り決めをしておく。学校からは災害時緊急マニュアルを保護者に示し、共通理解を図るとともに、メール配信システムによる児童引きとり訓練等を行っている。

<地区全体での見守り>

地区懇談会に区長や民生児童委員も参加していただき、協働して児童の安全確保に努めた。地区防災マップを校内にも掲示して啓発に努めた。

4 課題解決を判断する評価の方法

防災の知識、意識についてアンケートを実施（平成23～24年）した。その結果、自分たちの住む地域が水害常襲地帯の歴史をもつことを「よく知っている、少し知っている」を合わせた割合が、

◆ 6年生92% 5年生52%

同じく岩手宮城内陸地震の被害等について、

◆ 6年生85% 5年生63%

自然災害から身を守るために必要だと思うことを3つ以上挙げられたのは、

◆ 6年生58% 5年生45% であった。